

進路だより

令和8年9月18日
東京都立中野特別支援学校+
しいの木分教室
校長 伴 比佐志
担当 長谷川 諒
第3号

夏季休業中に、教員を対象とした事業所見学会を開催しました。今年は福祉事業所と企業を各2か所、計4回の見学会を行いました。見学会には、小学部から中学部、高等部までの教員が参加し、卒業後の働く様子を学び、高等部卒業時まで在学中にどのような力を育てておくか良いのかをあらためて考える機会になりました。

また、2学期以降には、すべての学部で進路指導に関連する取り組みが予定されています。その一つ一つが児童・生徒にとって、将来の進路につながる大切な経験となるよう、学校では事前の準備や取り組みに向けた学習をしっかりと行っていきたいと思います。

なお、12月と2月には、保護者の方に向けた進路研修会も予定しています。詳細につきましては、決まり次第お知らせいたします。進路について考える機会の一つとして、ぜひ御参加をいただければと思います。

○教員研修（事業所見学）

★三越伊勢丹ソレイユ(株)

(株)三越伊勢丹ホールディングスの特例子会社です。本校から近い新宿区に位置しており、本校の卒業生も勤務していました。各店舗から依頼を受け、お客様に提供する包装用のリボン作りや商品タグのシール貼り、伝票の記入・仕分け、袋詰め、スタンプ押し、梱包など幅広い業務を担っています。丁寧に取り組む姿や、個に応じた支援、目標設定などがとても印象的でした。一定の完成度で商品を作ることができるように、依頼された商品に合わせたオリジナルの治具は、指導員の工夫が凝らされたものばかりで感心しました。それぞれの商品の完成度の高さは、同じ(株)三越伊勢丹グループの社員からの信頼を得ており、お客様へ提供されるだけでなく販売員の作業効率を高め、次の業務依頼へとつながっているそうです。作業技術だけでなく、報告する力、相談する力、最後までやり抜く力、社会性（挨拶、規律を守るなど）、自力通勤など社会人として必要な力が求められており、卒業後を意識した小学部段階からの指導、日々の学習の積み重ねの大切さをあらためて感じました。

(小学部1年生担任：熊谷 健太)

★三越伊勢丹ソレイユ(株)

こちらの会社は、三越伊勢丹の百貨店で使われるギフト資材の製作や伝票記入などの事務業務を受託している会社です。知的障害や身体障害のある従業員が中心となり、全国のグループ会社から手作業を中心とする約100種類の業務を受託しています。本校の高等部卒業生も複数名勤務しており、立派に職務に励んでいる姿を目にすることができました。見学の最後には卒業生スタッフ2名のインタビューコーナーが設けられ、卒業後10年以上勤務されている方や、転職を経て新しく働き始めた方など、それぞれの歩みを知ることができました。異なる経緯をもちながらも、2人とも「ここで働くのが楽しい」と口を揃えて話していました。「バスを乗り継いで、一人で通勤することを頑張っている。」「たくさんの仕事があって、新しい仕事を覚えることが楽しい。」「年に2回ある、レクリエーション大会を楽しみにしている。」と、働く喜びを笑顔で生き生きと語っていた姿が印象的でした。

(中学部1年生担任：小平 沙来)

★中野区立弥生福祉作業所

中野区立弥生福祉作業所の見学をさせていただきました。就労継続支援B型事業、生活介護事業、就労移行支援事業、指定特定相談支援事業と、様々な事業を展開する多機能型の施設です。受給者証を持つ中野区在住の方を対象としており、本校の卒業生も数名通所されていました。

就労継続支援B型事業では、受注作業や封入作業、アクセサリー作りなどに取り組んでいらっしゃいました。通所されている方それぞれに適した仕事を検討し、作業しやすい環境を整えたり、治具を活用したりするなど、様々な工夫を取り入れている様子が印象的でした。

生活介護事業では、丁合作業に取り組んでいらっしゃいました。また、ドライブなどの余暇活動も取り入れながら活動されていました。作業や余暇活動など様々な活動を通して、一人一人の自分らしい暮らしを支え、社会参加の機会を広げる工夫について知ることができました。(中学部2年生担任：長谷川 諒)

★中野区立弥生福祉作業所

弥生福祉作業所は、ライフステージに応じたサービス展開をし、乳幼児期から高齢期まで幅広く支援している施設です。本部を除く17の拠点があり、本校の卒業生も主に就労継続支援B型や生活介護を利用していることを知りました。見学では、通所されている一人一人に合った活動ができるよう、治具を工夫したり、特性を生かした支援を行ったりしている様子を見せていただきました。チラシの丁合作業や、箸・醤油セットを作る作業など、通所されている方それぞれが自分に合った活動に取り組んでいる様子が印象的でした。

見学を通して、挨拶、手洗いなどの生活習慣と、「色」「形」「数」などの基礎的な力を日頃から身に付けていくことの大切さを改めて感じました。また、将来の生活や働くことにつながる力は、一朝一夕に身に付くものではなく、日々の積み重ねを大切に、小さなことから継続して取り組むことで身に付くものであると改めて実感しました。

(高等部3年生担任：福田 樹里)

○卒業生の働き続ける力を支えるもの

長く働いていると、毎日の生活が当たり前になり、学生時代に抱いていた夢や希望が少しずつ薄れていくことがあります。これは、本校の卒業生たちにとっても同じです。

在学中には、「家族のために働きたい」「給料をためて旅行に行きたい」など、将来への思いを語っていた卒業生たちも、社会に出ればさまざまな悩みや葛藤と向き合いながら働いています。

先日、卒業後3年目を迎えた卒業生の雇用契約更新の場に立ち会いました。その卒業生は、就職当初は順調に働いていましたが、仕事が思うようにいかない経験を重ねる中で、働くことへの意欲が低下した時期がありました。本人は気持ちを言葉で伝えることが得意ではなく、「クビにしてください」「もう出禁です」といった言葉を、業務日誌や家族へのメールに記していたそうです。

そんな時、家族は本人の気持ちを受け止めながら、「働いて得たお金でできること」や「働くことの意味」を一緒に考えました。また、休日には外出の機会をつくり、仕事以外の楽しみも大切にしてきました。その積み重ねが本人の支えとなり、先日の契約更新では「ここで働きたい」と自分の意思をしっかりと伝えることができました。

特別支援学校の卒業生の多くは、卒業後に働く道を選びます。しかし、働き続けるためには本人の努力だけでなく、家族や職場、支援者の存在が欠かせません。就職はゴールではなくスタートです。卒業生一人ひとりが前向きに働き続けられるよう、これからも周囲が寄り添いながら支えていきたいと思えます。

(高等部進路指導専任：田邊 大樹)